高度医療と予防医療に注力し市民に信頼される病院として発展し続ける中核病院

先進的な設備と技術を備え、堺市で中核的役割を担い、急性期医療を提供している堺市立総合医療センター。2020年4月に病院長として就任した大里院長に新たな取組みへの想いと、これからの展望をうかがった。

地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター
大里 浩樹 院長

中核病院としての役割

ICT導入によりさらなる地域医療の発展へ

堺市二次医療圏で唯一の公的病院である堺市立総合医療センター。三次救急を担う病院として、堺市の救急医療を支えており、年間9400件以上の救急搬送を応需し、救急外来受診者数は25000人にも及ぶ。堺市内で発生した三次救急患者の7割を受け入れている同院だが、さらに新たな取組みを開始すると2020年4月より病院長に就任した大里先生が語ってくれた。「堺市二次医療圏でも堺市医師会や地域医療支援病院を中心に、地域連携の情報システムとしてICT（情報通信技術）導入に向けて調整しています。ICTが円滑に稼働すると医療機関同士が患者さんに関する情報をリアルタイムで共有することが可能になります。ICTを推進することによって、地域の医療機関や多職種との連携強化が期待でき、在宅医療の効率化にも繋がるでしょう」。地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、感染症指定医療機関など多くの指定を受けている同院。「当院は堺市で唯一の災害拠点病院です。地域で中核的、指導的な役割を担うことで、地域の安全と医療機関の健全な活動が保証されるように、行政とも協力して取組んでいます」。災害時医療や感染症などの領域に対しても、地域医療を牽引する立場として尽力している。

高度医療のあり方

先進的な医療機能をより効率的に提供する体制

画像下治療による低侵襲な治療法に特化した「IVRセンター」の開設や、高度医療機器である手術支援ロボット「ダビンチ」を堺市で初めて導入するなど、先端医療を推進している。「地域で信頼される病院になるためには、先進的な医療レベルの向上に貢献しなければなりません。一方で、高齢化に伴い、治療を受ける患者さんの背景や治療への希望・抱えるリスクをしっかり評価した上で、治療法を選択することが重要となります。そのためには、医療従事者と地域住民の方々が協働して医療を形づくることが必要です」。急性期治療を行う同院は、患者さんにできる限り満足のいく治療を提供できるよう尽力している。患者さん本位の医療を提供するためにも、病院としてのあり方、医療のあり方を考えた仕組みづくりを積極的に行っていきたいと話す大里院長。また、病院だけで治療を完結するのではなく、リハビリ施設や介護施設とも連携して継続的な医療が提供できるように、同院の地域連携センターを中心に体制を整え、地域医療を支えていきたいと考えている。堺市の医療を守る最後の砦となれるよう持続可能な病院運営を目指す。

予防医療の推進

生活習慣病の予防を啓発し市民の健康を守る

「がんをはじめとした生活習慣病に対して、健康な時期から予防をしていくことが必要になり、私たちが市民の皆さまに検診の受診を啓発し、予防医療に力を注いでいかなければならないと考えています。そこで健康科学センター（仮称）を立ち上げ、当院の活動のひとつの柱にできるよう努めてまいります」と堺市民の健康寿命の延伸のために病院としても新たな取組みをスタートしていく。そのために医師だけでなく多職種の目線から地域に根ざした健康づくりを提供できる病院を目指していくと熱い想いを語ってくれた大里院長が率いる同院は、医療と介護、病院と在宅医療を繋ぎ、切れ目のない医療でこれからも堺市の医療発展に貢献していくだろう。

基幹病院として地域で中心的役割を担う堺市立総合医療センター。急速に進む高齢化に適応するため、地域の医療機関と緊密に連携を図っている。

1.地域の医療機関と患者さんをつなぐ地域連携センター。 2.堺市立総合医療センター総合災害訓練の様子。大規模な地震が発生したと想定し、災害対策本部の立ち上げ、情報伝達、多数傷病者の受け入れなどの訓練を行っている。 3.緩和ケアや在宅医療に携わる医療・介護従事者を対象に開催された「地域緩和ケア研修会」。地域の医療・介護従事者の連携を強化し、切れ目のない医療・介護サービスを提供することを目的に開催された。

▶医療詳細ページあり 86P

hospital data
地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター／TEL:072-272-1199　堺市西区家原寺町1-1-1　http://www.sakai-city-hospital.jp/